

すくすくだより

2009年
5月号

明照保育園



新しい生活が始まり1か月経ちました。5月に入り、少しずつお子さん本来のペースで過ごすことができ始めていますか。5月は大型連休がありますから、日頃はゆっくりお子さんと話したり触れ合ったりすることがなかなかしづらいため、是非この連休にご家族で過ごし、楽しく良い体験ができるとうれしいですね。



「おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)」 流行する季節がやってきました!?



これから気候も良くなり、気温が高くなる夏場にかけて冬場とはタイプが違う色々な感染症が流行します。今回は春から夏にかけて流行しやすい感染症「おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)」について解説します。

どうやって感染するの?

おたふくかぜの原因はだ液腺、耳下腺でムンプスウイルスが増え、ウイルスが含まれたつばを吸い込んでうつる飛沫感染、又は直接触れるなどの接触感染によりかかります。

どんな病気?

はしかや水ぼうそうに比べて感染力は強くありません。

流行しやすい時期としては春から夏にかけて多くみられます。

この感染症はどんな年齢の人にも発症しますが、多くは5~15歳の子どもに起こります。

おたふくかぜのウイルスに一度感染すると、普通は生涯にわたって免疫が得られます。

どんな症状?

ウイルスに感染してからおたふくかぜが発症するまでの期間(潜伏期間)は2~3週間です。

耳の下に「腫れ」と痛みが現れます。腫れは両側にみられますが、人によっては片側が少し遅れて腫れたり、片側だけ腫れることもあります。腫れは1週間前後でひきます。

お子さんの訴えに「耳が痛い」、「飲み込むときに痛い」という場合は、おたふくかぜの可能性があるので注意しましょう。

ほかにも38~39℃の発熱もみられたり、まったく発熱がでない場合もあります。

場合によっては、不顕性感染といって、感染してもまったく症状が現れず免疫ができるケースもあります。



かかってしまったら...

耳の下の腫れと痛みが治るまで登園停止になります。

耳の下の腫れと痛みを和らげるには冷湿布が効果的です。

お医者さんによっては解熱鎮痛薬の処方もあります。

口の中に炎症を起こし、痛みによって食欲が落ちやすいので、のど越しの良い食べやすいおかゆやスープ、ゼリーなどがお勧めです。

すっぱいような柑橘系の食べ物などは、だ液腺を刺激するため避けた方が望ましいです。



5月の健診日程のお知らせ

4か月児健診 (受付 9:00~10:30)

12・19・26日

1歳6か月児健診 (受付 12:50~14:00)

13・20・27日

3歳児健診 (受付 12:50~14:00)

7・14・21・28日

場所 母子保健センター

(「ここにこ」の隣)

対象者には、ご自宅へ健診日の約1か月前に健診票が郵送されますので、この案内の日時に健診を受けてください。

フ子情報!?

おたふくかぜは自費にて予防接種を受けることができます。予防接種で完全に「おたふくかぜ」にかかるのを防ぐことはできません。しかし、かかっても軽く済むというメリットもあります。



豊橋市役所 保育課 保育グループ
保健だより 2009年5月1日